

有明海の 特異な生物相



諫早湾の環境復元の意義

日本の他の海では見られない生物がたくさん生息しているかけがえない内海、有明海。その奥部の広大な泥干潟を閉め切った諫早湾干拓事業について、生物学研究者の4団体は、事業の中止・中断、諫早湾の原状復帰、あるいは長期開門調査の実施などを求める要望書を提出しています。その内容を紹介し、生物多様性保全の視点から、諫早湾の環境復元の意義を論じます。

《プログラム》

- はじめに「学会からの要望書提出の経緯」
佐藤正典(鹿児島大学)
- 講演1「魚類相について」
山口敦子(長崎大学)
- 講演2「貝類相について」
福田宏(岡山大学)
- 講演3「諫早湾閉め切り以降の有明海奥部の底生生物相の変化」
佐藤慎一(東北大学)
- 特別講演「韓国スンチョン市での干潟保全の取り組み」
チェ・ドクリム(スンチョン市経済環境局長)
- コメント「生物多様性条約に基づく国の政策」
国会議員(調整中)

2010 **11/27** 土

13:30~16:30

諫早市民センター講堂

長崎県諫早市東小路町 8-5
TEL0957-23-1160

資料代 :500 円

